

## 北川治男先生への謝辞

経済学部

竹内 啓二

北川治男先生が本年度で定年を迎えられるとのことで、私が謝辞を書くことになりました。どうして私が、と思いましたが、経済学部も若手の教員が増えていくとともに、年配の教員が退職されていき、北川先生を昔から知る者は、段々少なくなっていることに気がつきました。経済学部で先生の担当された科目の中に、道徳科学があり、私も道徳科学を3年前から教えているということもあり、私が執筆することになりました。

北川先生は、私にとっては、同じ麗澤高校、麗澤大学外国語学部イギリス語学科を卒業した先輩です。先生は1960年代に本学で学ばれ、私は70年代に学びました。先生に親しく接するようになったのは、1984年に私がモラロジー研究所の研究部（現在の道徳科学研究センター）に奉職してからです。北川先生は、モラロジー研究所研究部の研究員の先輩で、研究発表を聞かせていただいたり、話をしたりすることがありました。その後、先生は、モラロジー研究所の社会教育部門や教材開発に関する部署でも活躍されました。

モラロジー研究所で、2泊3日の「生と死を考えるセミナー」を10年間ほど、毎年12月に開催したことがありました。北川先生と企画・運営のメンバーとしてご一緒させていただいたこともありました。

1992年に国際経済学部ができてから、私も学部教授会のメンバーとなり、また、研究室もともに研究棟Bの4階にあるということで、おりおり顔を合わせるようになりました。

経済学部で、新入生が谷川セミナーハウスに宿泊してのオリエンテーションがあった頃に、北川先生が廣池千九郎博士について講話されるのがいつものプログラムでありました。

その中で、廣池博士を、Humble life with noble mind（高邁な精神をもって、つつましい生活を送られた方）だと紹介されていたのが、印象に残っています。谷川の麗澤館や大穴の質素な建物を見学し、博士の生涯について講話を聞いた学生たちは、この言葉の意味することを理解したのではないかと思います。

ともに兼務したモラロジー研究所の道徳科学研究センターで、北川先生がセンター長となられてからは、研究員として、公開講演会のことや、その他の研究センターの業務に関して、北川先生に報告したり、指示を仰いだりすること

になりました。センター会議で、センター長として挨拶されたりする様子が今も思い出されます。いろいろな意見が出て、議論が紛糾した際に、バランスがとれて筋の通ったまとめをされていたのが印象に残っています。国際会議での、折り目正しい英語の話しぶりも印象に残っています。先生は、研究センター長として、多くの業績を残されました。

道徳科学の授業を担当することになった前の年だったでしょうか、北川先生の道徳科学の授業を見学させていただいたことがあります。丁寧に教えておられて、先生の性格が出ている授業だなと思いました。道徳科学を担当することになってからは、担当者の会議で一緒することになりました。現在、カリキュラムを変えて、全学年で道徳科学を学べるようにしていく方向で進めています。ベテランの北川先生が抜けて、貴重な意見が聞けなくなるのは残念です。

平成26年度から、先生が教えられていた二クラスの道徳科学の授業を誰が担当するかということが問題になりますが、私ももう一クラス担当することになりました。北川先生は、国際経済学部ができる以前から、つまり、外国語学部のみの中から、道徳科学を担当してこられました。後進の者は、道徳科学の授業をどう受け継いでいくかを考えていかなければなりません。建学の精神でもある道徳科学の授業をしっかりと受け継ぎ発展させていくことが、北川先生をはじめ、道徳科学を担当した先輩の教員の方々の授業に込めた思いを受け継ぐことでもあると思います。

先生が担当された主要な科目は、道徳科学のほかに、教育原理、教育史、教育本質論、生徒進路指導論です。また、「生涯にわたる人格的発達課題」を主な研究テーマとしてこられました。

北川先生は、公益財団法人モラロジー研究所の理事や常務理事を務め、モラロジー専攻塾の塾頭も務められました。塾頭をされていた頃には、4日間の皇居勤労奉仕にも一緒に行きました。また、毎朝7時45分頃から9時前までの英語の授業にも出てこられて、塾生と一緒に参加されていました。先生は、専攻塾の多くの卒業生からも尊敬され、慕われています。

モラロジー研究所で、高齢者福祉介護事業を始める計画が具体化しつつありますが、その中心になって活躍もされています。

北川先生は、麗澤の園で育ち、麗澤の人として、後進を育て、学生を育ててこられました。今後とも、キャンパス内でお目にかかり、いろいろとご指導いただきたいと思います。

長い間、どうもありがとうございました。



### 北川治男教授 略歴

昭和18（1943）年4月15日生（本籍地：滋賀県）

#### 学 歴

昭和37年3月 私立麗澤高等学校卒業  
 昭和41年3月 麗澤大学外国語学部イギリス語学科卒業（文学士）  
 昭和44年3月 国際基督教大学教養学部教育学科卒業（教育学士）  
 昭和47年7月 国際基督教大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）  
 昭和53年9月 ロンドン大学教育研究所（アソシエイトシップ・コース）在籍  
 ～昭和54年6月

#### 職 歴

昭和46年4月 私立大妻女子高等学校非常勤講師（英語）  
 昭和47年4月 財団法人モラロジー研究所研究部教育研究室研究員  
 昭和55年4月 麗澤大学外国語学部講師（道徳科学）  
 昭和56年4月 明治学院大学非常勤講師（道徳教育の研究）～昭和59年9月  
 昭和58年4月 東洋大学文学部教育学科（二部）非常勤講師（生活指導及び道徳教育）～昭和61年3月  
 昭和59年4月 麗澤大学外国語学部助教授（教育原理、道徳教育の研究、教育哲学、道徳科学）  
 平成02年4月 麗澤大学外国語学部教授（教育原理、道徳教育の研究、教育哲学、教養ゼミナール）  
 平成04年4月 麗澤大学国際経済学部教授（教育原理、生徒指導論、道徳科学、教師論、教育史）  
 平成21年4月 麗澤大学経済学部特任教授（教育本質論、生徒進路指導論、道徳科学）

<公益財団法人モラロジー研究所における活動>

昭和60年4月 開発部青少年担当幹事、生涯学習部長、教材開発室長など ～平成14年3月  
平成14年4月 道徳科学研究センター長 ～平成17年3月  
平成17年4月 モラロジー専攻塾塾頭 ～平成21年3月  
平成23年4月 常務理事 ～現在に至る

所属学会

日本教育哲学会  
日本デュエイ学会

## 北川治男教授 主要業績

### 著書

- P. A. ソローキン著『利他愛』（共訳）（広池学園出版部、1977）
- P. A. ソローキン著『若い愛・成熟した愛』（共訳）（広池学園出版部、1985）
- モラロジー研究所編『日本の近代化と精神的伝統』（共著）（広池学園出版部、1985）
- Edited by P. Lengrand, *Areas of Learning Basic To Lifelong Education*（共著）（Pergamon Press and the Unesco Institute for Education, 1986）
- モラロジー研究所出版部編『心を育てる教育』（共著）（モラロジー研究所、1999）
- Edited and Translated by Haruo Kitagawa, Shujiro Mizuno & Peter Luff, *Searching for a Common Morality in the Global Age—The International Conference on Moral Science in 2002*（Lancer's Books, New Delhi & The Institute of Moralogy, 2004）
- 北川治男著『品性は生きる力—生存の基盤を培う教育』（モラロジー研究所、2009）
- 麗澤大学道徳科学教育センター著『大学生のための道徳教科書—君はどう生きるか？』（共著）（麗澤大学出版部、2009）
- 道徳科学研究センター倫理道徳白書委員会編『倫理道徳の白書』Vol. 2（共著）（モラロジー研究所、2010）
- 岩佐信道・北川治男監修『廣池千九郎の思想と業績—モラロジーへの世界の評価（2009年モラルサイエンス国際会議報告）』（共著）（モラロジー研究所、2011）
- 麗澤大学道徳科学教育センター著『大学生のための道徳教科書<実践編>—君はどう考え、どう行動するか？』（共著）（麗澤大学出版部、2011）

### 主な論文等

- 「Deweyの認識哲学における認識と経験の関係に関する一考察—Bollnowの視点を手がかりにして」（モラロジー研究所研究部『モラロジー研究』No. 1、1973）
- 「最高道徳的主体性の特質—モラロジーの現代的意義に関する一考察」（『モラロジー研究』No. 4、1976）
- 「生涯学習の基礎となる学習の諸領域—倫理的領域」（『モラロジー研究』No. 10、1981）
- 「生涯にわたる発達課題論について—心理学の見方・教育人間学の見方」（『モラロジー研究』No. 16、1984）
- 「下程勇吉編『教育人間学研究』<図書紹介>」（『モラロジー研究』No. 18、1985）
- Social Education in Moralogy*（“Moral Education Forum” Vol. 13, Hunter College, City University of New York, 1988）
- Aging and Facing Death as Tasks of Lifelong Learning*（麗澤大学経済学会『麗澤学際ジャーナル』Vol. 5, No. 1, March 1997）
- 「人類社会はコモンモラリティを求めている」（『モラロジー研究』No. 52、2003）

- 「人間社会と伝統の原理」（道徳科学研究センター編『グローバル時代のコモンモラリティの探求—2002年モラルサイエンス国際会議報告』（財団法人モラロジー研究所、2005））
- 『「君、すまんけどね」の言葉に導かれて〈大澤俊夫先生追悼文〉』（『モラロジー研究』No. 62、2008）
- 「モラロジー教育の現場から—対話を通して学ぶ」（モラロジー研究所出版部『モラロジー生涯学習資料』No. 1、2011）

#### その他の研究教育活動

- 『モラロジー概説』（モラロジー研究所、1982）の編集
- 『総合人間学・モラロジー概論—互敬の世紀をひらく道徳原理』（モラロジー研究所、2007）の編集
- Edited by Mototaka Hiroike, *Distilled Wisdom—Integrating the Perennial and the Modern in a Troubled World* (Reitaku University Press, 2012) の編集
- 『モラロジー研究所所報』への寄稿
- 「教育再生のために教育の本質を問い直そう」2007年6月
  - 「安心を支えるもの—廣池千九郎の生き方に学ぶ」2012年6月
  - 「実りある苦勞」2012年10月・11月
  - 「祈られていることの自覚」2013年5月
- 『サイバー適塾クイック』への寄稿
- 「徳は身を立てる財本（1）生きる力・活力の再生を求めて」2008年4月
  - 「徳は身を立てる財本（2）品性・品格が問われる時代」5月
  - 「徳は身を立てる財本（3）家庭の教育力の回復」6月
  - 「徳は身を立てる財本（4）企業の品性資本」7月
  - 「徳は身を立てる財本（5）国家の品格」8月
  - 「徳は身を立てる財本（6）人類社会はコモンモラリティを求めている」9月
  - 「倫理・道徳（1）現代社会のモラルと企業倫理」2009年4月
  - 「倫理・道徳（2）誠実さの復権」5月
  - 「倫理・道徳（3）厳しくなった企業に対する要求」6月
  - 「倫理・道徳（4）コンプライアンス経営からCSR経営へ」7月
  - 「倫理・道徳（5）公正な社会を目指して」8月
  - 「倫理・道徳（6）事業は人なり」9月